

たましま協同病院だより

玉島協同病院

倉敷市玉島柏島5209-1

電話(086) 523-1234

<http://www.tamakyo.com/>

発行責任者 青木弘人

〔病院理念〕玉島とその周辺の地域で暮らす人々が、疾病・障害のあるなしにかかわらず、その人らしく輝いて暮らせ、安心して一生を終えることを支援する医療機関でありたいと願います

9月21日は認知症の日
＜世界アルツハイマーデー＞です！

ご存じですか？認知症の人の 意思決定支援ガイドライン

認知症があるからといって自分の意見が通らない、自分の意に沿わないことを決められるということは大変な苦痛ではないでしょうか。こうしたことを防ぐために、厚生労働省は2018年に「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」を策定しました。このガイドラインには「能力があるかをまず評価して、能力がある場合のみ支援する」という発想は誤りであると明記されています。患者さん一人一人の意志を尊重するために当院では認知症ケアチームが発足しています。医師・看護師・医療ソーシャルワーカーがメンバーに入り患者さんを支援できる体制を整えています。何かお悩みがあれば気軽にご相談ください。

以下は原則の6つの柱とする考え方です。



原則1：本人の意思の尊重

原則2：本人の意思決定能力への配慮

原則3：チームによる早期からの継続的支援

原則4：意思決定支援は3段階のプロセス

原則5：本人にとってわかりやすい情報提供

原則6：本人の最善の利益と意思推定

(2病棟看護師 おおしま 大嶋 暁子)



訪問診療先にて：今年も大きなスイカが育ちました♪

診察や治療だけでなく「いつもの暮らし」を大切にしながら支えることが地域医療の大きな役割であると感じました。また医療に関わる多くの方々がそれぞれの立場で患者さんを



訪問診療での診察風景

支えていることも深く学ぶことができました。私自身、玉島で育ったこともあり、慣れ親しんだ地域でこのような医療に触れたことを大変うれしく思います。今回の経験を忘れず、地域の皆様に寄り添える医師を目指していきたいと思っています。研修で世話になった病院の皆様、地域の方々、本当にありがとうございました。

(初期研修医 正木 智洋)

「くらし」に寄り添う
医療を学ぶ

玉島協同病院は今後も部屋代はいただきません／カルテを開示しています



2026年6月より新メンバー5名が加わりスタートしています。外来より看護師1名、病棟より介護福祉士3名、介護士1名を迎え、総勢14名で皆様をお迎えしています。

通所リハビリテーションのご紹介
新たなメンバーを迎えて

通所リハビリの役割

介護保険で認定されている要支援1・2、要介護1～5の方が対象で在宅生活の維持・向上を目的として理学療法士、作業療法士、看護師、介護福祉士、介護士が中心で支援させていただきます。

特徴

・リハビリ
要支援から要介護の方までリハビリを提供しています

・介護
利用時・自宅においても歩行器など福祉用具や生活環境などのアドバイスをご家族の方へも行っています

入浴希望のある方は

2回以上の受入もしています(要相談)
個人に合わせた自主訓練メニューを支援しています
レクリエーション、手作業、自由時間など個人に合わせて支援しています

・看護
病気や傷の処置の継続・胃ろう注入など主治医と連携しつつ対応しています
ご家族からの相談も受けています

・歯科
玉島歯科診療所より2ヶ月に1回訪問があり、歯科検診をおこなっています(曜日不定)。

当院だからこそできる地域に密着した病院の通所リハビリとして外来・訪問診療・病棟・居宅・訪問看護・透析・歯科などと連携して皆様の在宅生活を支援させていただきます。

(通所リハビリテーション 鳥羽 ゆかり)

加集万里子の お料理教室

シリーズ
212

ズッキーニの揚げ浸し



ズッキーニの大量消費と作り置きにぴったりです。
サクサクとした食感がやみつきになります。

材 料 (ズッキーニ2本を使って)

♥ズッキーニ 中2本
♥揚げ油 適量

つけだし

♥だし 水2カップ+ 出汁の素大さじ1
♥しょうゆ 大さじ3
♥砂糖 大さじ1
♥みりん 大さじ3
♥酢 大さじ1

作り方

- ①つけだしの材料を合わせ、1度煮立てて冷ましておく。
- ②ズッキーニを7ミリの厚さに切り、フライパンに1cm位の揚げ油を入れ、両面がうすく色づく位に揚げる。
- ③用意しただしにすぐ漬ける。
あら熱が取れたら冷蔵庫に入れ、2～3日食べられます。

つけだしにお好みのめんつゆを使っても美味しくできます。



Follow Us !
玉島協同病院
公式Instagram
@tamashima_kyoudou



1位 1病棟

第97回メーデーでは「労働者の権利」を主張し団結を誇示するため、各職場でプラカードを毎年作成しています。今年も沢山の作品が制作され、院内にて投票を行いました。前号で1位は1病棟とお伝えしましたが、続いて2位が外来・透析室、3位が地域医療・ケアサポートセンターという結果となりました。受賞した部署には労働組合から表彰をしていただき、記念撮影も行いました。メーデー当日に続いて労働者の想いを大きくアピールすることが出来、団結力も高まったように思います。
(地域医療・ケアサポートセンター)
柳瀬 佳奈



2位 外来・透析室



3位 地域医療・ケアサポートセンター

プラカード表彰式を開催



「被災地を知る」学習企画に参加

in 福島県



津島地区案内の様子
(案内人の女性は津島原発訴訟原告の1人)

現在も多くの方が故郷に戻れない現状を学びました。
現地を訪れ、復興が進む一方で、原発事故は過去の出来事ではなく、現在進行形の問題であることを実感しました。原発事故を知らない世代が増えているなかで、今回の学びを通して震災や原発事故を風化させることなく、福島の実情を正しく知り、今後も学びを深めていきたいと思っています。

(社保平和委員会
西村 みゆき)

6月13日、14日福島県で開催された「被災地を知る」学習企画に参加しました。東日本大震災と福島第一原発事故から今年で15年。報道される機会が減っている中で、復興の現状を自分の目で確かめたいと思ったことが参加のきっかけです。集合場所のJR郡山駅を出発し、請戸小学校や東京電力廃炉資料館などを見学しました。特に津波被害の痕跡が残る請戸小学校では、その脅威を目のあたりにするとともに、日頃から防災意識を持つことの大切さを改めて実感しました。また、浪江町津島地区では、原発事故により避難を余儀なくされた住民の方のお

話を伺いました。住み慣れたまちが帰還困難区域に指定され、自宅は管理できないまま朽ち、昨年やむなく自宅を解体されたそうです。「家族との思い出が詰まった自宅が、無残にも汚染廃棄物としてフレコンバックに詰め込まれた」と涙ながらに語っておられました。その言葉から、原発事故が人々の暮らしや大切な思い出まで奪ったことを痛感しました。現在も津島地区の16%の面積しか除染がされておらず、15年経過し



震災遺構の請戸(うけど)小学校。海からわずか300mに位置し、2階床上まで浸水する被害にあいましたが、迅速な判断により全員が無事避難することができたことから「奇跡の学校」とも言われています。

玉島協同病院は無料低額診療事業を行っています。お気軽にご相談下さい。